

第五百五條 非訟事件手續法第三百三十六條乃至第三百八十八條、第四百一十一條乃至第四百五十一條、第四百五十四條乃至第五百五十八條、第六十三條乃至第六十五條及び第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

非訟事件手續法第三百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

同第三百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

同第三百三十八條 左ニ掲ゲタルモノハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ズ

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ビ準禁治産者
- 三 剽奪公權者及ビ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
- 五 破産者

同第四百一十一條 各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

同第四百十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覧ヲ許シ又ハ手数料ヲ納付スルトキハ之ニ其ノ謄本若クハ抄本ヲ交付スル

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請シタル者ニハ其ノ關係アル部分ニ限リ登記簿ノ附屬書類ノ閲覧ヲ許スベシ

郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ贈フトキハ登記所ハ之ヲ送付スベシ

同第四百十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又或ハ事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スベシ

同第四百十四條 登記シタル事項ノ公告ハ官報及ビ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス

公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ビ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト見做ス

同第四百十五條 區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ掲載セシムベキ新聞紙ヲ選定シ官報及ビ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スベシ

公告ヲ掲載セシムベキ新聞紙ガ休刊又ハ廢刊ヲ爲ストキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スベシ

同第四百十六條 區裁判所ハ其ノ管轄内ニ公告ヲ爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ビ其ノ管轄内ノ市町村役場ノ掲示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得

同第四百十七條 登記スベキ事項ノ登記其ノ變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

同第四百十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其ノ登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記

所ニ其ノ更正ヲ申請スルコトヲ得

同第百四十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ登記シ申請人又ハ其ノ代理人之ニ署名、捺印スベシ

一 申請人ノ氏名、住所、會社ガ申請人ナルトキハ其ノ商號及ビ本店又ハ支店

二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其ノ氏名、住所

三 登記ノ目的及ビ事由

四 年月日

五 登記所ノ表示

同第百五十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スベキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト難キ

ザル者アルトキハ其ノ他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハザル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

同第百五十一條 登記所ハ登記ノ申請ガ商法又ハ本章ノ規定ニ適セザルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ却

下スベシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

同第百五十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部ガ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記

ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得

同第百五十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スベキ商業登記ノ事務ヲ其ノ一登記所ニ委任スルコト

ヲ得

同第百五十六條 登記簿ノ調製其ノ他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

同第百五十七條 不動産登記法第十條、第十八條、第二十條、第二十二條及ビ第二十四條ノ規定ハ商業登記

ニ之ヲ準用ス

不動産登記法第十條 登記所ニ於テ其ノ事務ヲ停止セザルコトヲ得ザル事故ノ生ジタルトキハ司法大臣ハ

期間ヲ定メテ其ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

同第十三條 登記官吏ガ其ノ職務ノ執行ニ付キ申請人其ノ他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ損害ガ登記官

吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ズ

同第十八條 登記簿ニハ地方裁判所長枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且ツ毎葉綴目ニ

職印ヲ以テ捺印ヲ爲スコトヲ要ス

同第二十條 登記簿、見出帳、共同人名簿及ビ簿面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

申請書其ノ他ノ附屬書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

同第二十二條 登記簿及ビ其附屬書類ハ事務ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外登記所外ニ持出スコトヲ得ズ

但シ同二十二條第二項ニ掲ケタル書類ニ付テハ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

同第二十四條 登記簿及ビ其ノ附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得  
同第五十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人ガ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

同第六十三條 商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其ノ登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ證明スルコトヲ要ス

商法第二十四條第一項 商號ノ登記ヲ爲シタルモノガ其ノ商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲サザルトキハ利害關係人ハ其ノ登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

同第六十四條 前條ノ申請アリタルトキハ登記所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ旨ヲ告知シ一箇月ヨリ長カラザル期間ヲ定メ異議アラバ其ノ期間内ニ之ヲ申立ツベキ旨ヲ催告スベシ

前項ノ規定ニ依リ告知及ビ催告ヲ受クベキ者又ハ其ノ居所ガ知レザルトキハ告知及ビ催告ハ登記ノ催告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スベシ

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル他ノ新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

同第六十五條 前條ノ規定ニ從ヒテ異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其ノ裁

列ヲ爲スベシ

前條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

同第七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スベキ會社ノ登記所ノ管轄トス

前條ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

同第七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其ノ選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

同第七十七條 清算人ノ解任又ハ變更ノ登記ハ現在清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ清算人ノ解任又ハ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フベキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長、沖

繩島ノ區ニ於テハ區長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第七條 北海道ニ於ケル産業組合ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則 明治四十二年四月  
法律第二十七號

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前産業組合ガ裁判所ニ提出シタル組合員名簿ハ組合原簿ト見做ス

(二) 産業組合中央會ノ設立及事業ニ關スル件

明治四十二年八月二十日 勅令第二百十三號

- 第一條 産業組合中央會ヲ設立セムトスル者ハ申請書ニ定款ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ受ケル
- 第二條 發起ノ認可アリアルトキハ發起人ハ期限ヲ定メテ會員ヲ募集シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ創立總會ヲ招集シ定款ヲ議定スル
- 第三條 前項定款ノ議定ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス
- 第四條 創立總會ノ議決權ハ書面又ハ代理人ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得
- 第五條 創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ申請書ニ定款及ビ創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出シ設立ノ認可ヲ受ケル
- 第六條 設立ノ認可アリタルトキハ發起人ハ其ノ事務ヲ理事ニ引繼ケル
- 第七條 産業組合中央會ハ産業組合法第八十二條第三項ニ依リ其ノ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ニ對シ同法第一條第一項第三號及ビ第四號ノ事業ヲ行フコトヲ得但シ加工ニ關スル事業ニ付テハ此限ニ在ラズ

本令ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(三) 産業組合法施行規則

明治四十二年八月二十一日 農商務省令第三十五號

- 第一條 信用組合ノ區域内ニ住居スル者ニ非ザレバ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第二條 前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戻ハ豫約ノ消滅シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 豫約者ハ其ノ貯金ガ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂戻金額ノ最小額ト同額ニ達シタル後ニ非ザレバ組合ニ加入スルコトヲ得ズ
- 第四條 豫約者ガ豫約後三箇年ヲ經過シ尙ホ組合員ト爲ルニ至ラザルトキハ組合ハ豫約ノ解除ヲ爲スベシ
- 第五條 出資一口ノ金額ハ組合ニ在リテハ五十圓、聯合會ニ在テハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ
- 第七條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ズ
- 第八條 組合若クハ聯合會ガ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルベシ脱退シタル組合員又ハ組合若クハ聯合會ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ
- 第九條 總代會ハ組合ニ在リテハ千人以上ノ組合員、聯合會ニ在リテハ百人以上ノ所屬組合及ビ所屬聯合會ヲ有

ノルニ非ザレバ之ヲ設クルコトヲ得ズ

總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及ビ選舉ニ關スル規定ヲ設クベシ

第七條 産業組合法第九十條ノ代表者ハ道府縣毎ニ會員之ヲ選舉スベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第八條 理事及ビ監事ハ定款ノ規定又ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非ザレバ給料報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ズ

第九條 組合聯合會及ビ中央會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後選擧ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ゲタル書類ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ差出スベシ

第十一條 組合又ハ聯合會ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 組合ニ在リテハ組合員ノ職業別ノ數並ニ出資口數ノ異動、聯合會ニ在リテハ所屬組合及ビ所屬聯合ノ種類別ノ數並ニ出資口數ノ異動
- 二 出資拂込ノ總額及ビ剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額
- 三 損益ノ計算並ニ借入金及ビ其ノ償還
- 四 總會又ハ總代會ノ決議
- 五 事業ノ狀況

六 信用組合又ハ信用組合聯合會ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケル金額及ビ件數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及ビ貯金ヲ爲シタル組合員又ハ所屬組合及ビ所屬聯合會ノ數並ニ貯金及ビ貸付金ノ利率、産業組合法第一條第二項ノ豫約ヲ爲シタル信用組合ニ在リテハ豫約者ノ數及ビ其貯金額、販賣組合又ハ販賣組合聯合會ニ在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數並ニ貯金額、購買組合又ハ購買組合聯合會ニ在リテハ購買又ハ賣却シタル物ノ種目別ノ數並ニ貯金額、生産組合ニ在リテハ生産シタル者ノ種目別ノ數並ニ又ハ加工若クハ使用ノ功程ヲ表示スベキ事項、生産組合聯合會ニ在リテハ使用ノ功程ヲ表示スベキ事項

七 處務ノ要件

前項ノ規定ハ中央會ノ事業報告書ニ之ヲ準用ス

第十二條 組合、聯合會又ハ中央會ガ借入金ヲ爲サムトスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ議決スベシ

前項ノ規定ハ信用組合又ハ信用組合聯合會ガ一事業年度ニ於ケル一組合員又ハ一所屬組合若クハ一所屬聯合會ニ對シテ爲ス貸付額ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス

第十三條 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會又ハ總代會ノ決議錄、財産目録ニ選擇ナク報告スベシ

及ビ貸借對照ヲ添附スベシ

第十四條 剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ

持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分步ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十五條 合併ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及ビ合併後存續スル組合若クハ聯合會又ハ合併ニ因リテ設立スル組合若クハ聯合會ノ定款ヲ添附スベシ

第十六條 組織變更ノ認可申請書ニハ組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員又ハ所屬組合及ビ所屬聯合會ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スベシ

第十七條 組合又ハ聯合會ガ中央會ニ加入シ又ハ脱退シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第十八條 郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フベキ者ガ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハムトスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フベシ

第十九條 地方長官ガ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スベシ

第二十條 産業組合法ノ規定ニ依リ理事又ハ監事ニ關スル登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及ビ

其ノ登記ノ年月日ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ届出ツベシ

附 則

第二十一條 本則ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セズ

### (四) 北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ關スル件

明治三十三年六月一日  
勅令第二百五十五號

第一條 勅令ハ北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ之ヲ適用ス

第二條 組合ノ組織ハ無限責任トス但シ設立後十箇年ヲ經タルモノハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ有限責任又ハ保證責任ト爲スコトヲ得

第三條 産業組合ハ二十人以上ニ非ザレバ之ヲ設立スルコトヲ得ズ

第四條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ三箇年以内ノ期限ヲ以テ組合創業者ノ一部又ハ全部ヲ其ノ組合ニ貸與スルコトヲ得

第五條 出資ハ勞務ヲ以テ其ノ目的ト爲スコトヲ得

第六條 組合員ノ出資口數ハ一口トス但シ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ十口以下ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

本日信用組合附錄

- 第七條 組合ノ理事ハ二名以上監事ハ二名以上トス但シ北海道廳長官ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八條 理事ハ總組合員ノ承諾アルニ非ザレバ組合ト同一ノ事業ヲ目的トスル他ノ組合ノ理事ト爲ルコトヲ得ズ
- 第九條 組合ハ每事業年度ノ終リ迄ニ總會ノ決議ヲ經テ左ノ事項ヲ北海道廳支廳長ニ報告スベシ
  - 一 次年度ニ於ケル業務施行ノ方法
  - 二 次年度ニ於ケル負債額ノ最高限度
  - 三 信用組合ニ在テハ次年度ニ於テ組合員ニ貸付シ得ベキ金額ノ最高限度
- 前項第二號ノ負債額ノ最高限度ハ現在負債額ヲ合シテ之ヲ定メ其ノ年度内ハ之ヲ變更スルコトヲ得ズ
- 第十條 組合ハ組合員ノ脱退シタル場合ニ於テモ出資ノ外其ノ持分ヲ拂戻スコトヲ得ズ
- 第十一條 存立時期ヲ定メタル組合ニ於テハ其ノ組合員已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外總組合員ノ同意アルニ非ザレバ脱退スルコトヲ得ズ
- 第十二條 組合ハ組合員ノ數二十人以下ニ減シタルトキハ解散ス
- 第十三條 登記及ビ届出ニ關シ產業組合員ニ於テ定メタル二週間ノ期間ハ本令ニ於テハ之ヲ三週間トス
- 第十四條 產業組合員ニ定メタル郡長ノ職務ハ支廳長之ヲ行フ

附則

信用組合ニ關スル法規

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム

(五)北海道ニ於テ農業者ノ設立スル產業組合ニ關スル施行

規程 明治三十四年五月二十一日 内務省令第十三號

- 第一條 明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル產業組合組合員ハ北海道内ニ土地ヲ所有シ又ハ占有シテ農業ニ従事スル者ニ限ル
- 第二條 出資一口ハ百圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第三條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ
- 第四條 勞務ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキハ定款ヲ以テ其ノ價格及ビ出資ノ方法ヲ定ムベシ
- 第五條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ズ
- 組合ニ於テ借入金アルトキハ其ノ額ニ達スル迄前項準備金ノ外每事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツベシ
- 第六條 組合ガ組合員ヨリ過意金ヲ徵收スルトキ又ハ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收スルトキハ金額ハ準備金ニ組入ルコトヲ要ス

第七條 持分ニ對スル剩餘分配ノ率ハ組合ニ於テ毎年北海道廳長官ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムベシ  
第八條 明治三十三年勅令第二百五十五條第四條ニ依リ組合創業費ノ貸與ヲ受ケムトスル組合ハ左ノ書類ヲ添付シ北海道廳長官ニ申請スベシ

- 一 貸與金使用ノ費途
- 一 返還期限及ビ返還ノ方法
- 一 財産目録
- 一 貸借對照表
- 一 事業ノ狀況

第九條 組合ガ事業ヲ停止シタルトキ又ハ組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ其ノ他組合ノ行爲ガ公益ヲ害スルノ虞アルトキハ北海道廳長官ハ返還期限前ト雖前條ノ貸與金ヲ返還セシムルコトヲ得

第十條 理事及ビ監事ハ定款ノ規定ニ依ルニ非ザレバ給料又ハ報酬ヲ受クルコトヲ得ズ但シ會計事務ニ專任スル理事ニシテ總會ノ決議ヲ經タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 理事ハ産業組合法ノ規定ニ依リ總會ニ提出シタル書類ハ其ノ決議ヲ經タル後遲滞ナク決議書ヲ添へ

之ヲ北海道廳支廳長ニ差出スコトヲ要ス

登記ヲ爲シタルトキハ其ノ登記シタル事項及ビ其ノ登記ノ年月日ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ組合員名簿ニ記シタル事項ハ此限ニ非ズ

第十三條 北海道廳長官又ハ北海道廳支廳長ニ於テ産業組合法第六十條及ビ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ北海道廳長官ハ内務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十四條 組合ノ事業報告書記載ノ事項及ビ出資額ノ減少組織ノ變更並ニ合併ノ認可申請ニ關シテハ産業組合法施行規則第八條第十條第十二條及ビ第十三條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治三十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

## 第二、信用組合及信用組合聯合會模範定款

### (一)無限責任何々信用組合定款

(農商務省農務局調査)  
明治三十三年十二月一日官報  
第五二二六號登載

#### 第一章 總 則

第一條 本組合ハ組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及ビ貯金ノ便宜ヲ得セシムルヲ以テ目的ト爲ス



本日信用組合附錄

- 第二條 本組合ハ無限責任何々信用組合ト稱ス
- 第三條 本組合ノ組織ハ無限責任トス
- 第四條 本組合ノ區域ハ何縣何郡何村トス
- 第五條 本組合ノ事務所ハ之ヲ何縣何郡何村何番地ニ置ク
- 第六條 組合員タル者ハ本組合ノ區域内ニ住居シ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ限ル
- 第七條 組合員ハ他ノ信用組合ニ加入スルコトヲ得ズ
- 第八條 本組合ノ存立時期ハ三十箇年トス
- 第九條 組合員ハ其拂込済出資額ニ應ジ組合財産ニ對スル權利ヲ有ス
- 第二章 出資及ビ準備金
- 第十條 出資一口ノ金額ハ金十圓トス
- 第十一條 出資ノ第一回拂込金額ハ一口ニ付キ金一圓トス
- 第十二條 第一回拂込後ハ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノ、外組合員ハ左ノ各號ノ一二依リ出資ノ拂込ヲ爲スコトヲ得
  - 一 出資各口ニ付キ毎月末迄二十錢以上拂込ムコト
  - 二 出資各口ニ付キ毎年一月末及ビ六月末金一圓以上宛拂込ムコト

信用組合ニ關スル法規

- 三 第一回拂込後二箇年以内ニ全額ヲ拂込ムコト
- 第十三條 組合員其出資ノ拂込ヲ怠リタルトキハ期日後一日ニ付キ其拂込ムべき金額ノ百分ノ一二當ル過意金ヲ徴收ス
- 第十四條 準備金ノ額ハ出資總額ノ一倍中トシ其額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一ヲ積立ツルモノトス但シ總會ノ決議ニ依リ積立ノ割合ヲ増加スルコトヲ得
- 第十五條 加入金、過意金及ビ第五十二條ニ依リ一部ノ拂戻ヲ爲シタル持分ノ殘額ハ之ヲ準備金ニ繰入ル、モノトス
- 第十六條 剩餘金ガ準備金ニ積立ツべき金額及ビ組合員ニ配當又ハ分配スべき金額ヲ控除シテ殘餘アルトキハ特別積立金トシテ之ヲ積立ツルモノトス
- 第十七條 特別積立金ハ損失填補ニ充ツルノ外總會ノ決議ニ依リ之ヲ臨時ノ支出ニ使用スルコトヲ得
- 第十八條 準備金及ビ特別積立金ハ組合員ニ貸付シ、總會ノ承認ヲ經タル銀行若クハ一個人ニ預入レ之ヲ以テ國債證券ヲ買入ル、ノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ズ
- 第三章 組合ノ機關
- 第十九條 本組合ニ理事三名、監事一名ヲ置ク
- 理事ハ組合長一名ヲ互選ス

- 第二十條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ再選ヲ妨グズ  
補缺選舉ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス
- 第二十一條 辭任其他ノ事由ニ依リ理事又ハ監事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ通常總會ヲ俟ツコト能ハザル場合ニ  
限リ臨時總會ニ於テ補缺選舉ヲ爲スモノトス  
總會ガ理事又ハ監事ノ解任ヲ議決シタルトキハ同時ニ其補缺選舉ヲ爲スコトヲ要ス
- 第二十二條 總會ハ通常總會及ビ臨時總會ノ二種トス  
通常總會ハ毎年一回一月之ヲ開ク  
臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク
  - 一 理事ガ必要ト認メタルトキ
  - 二 監事ガ産業組合法第三十四條ニ依リ必要ト認メタルトキ
  - 三 總組合員五分ノ一以上會議ノ目的及ビ其招集ノ理由ヲ示シテ請求シタルトキ
- 第二十三條 總會ノ招集ハ少クテモ五日前ニ書面ヲ以テ組合員ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス  
前項ノ通知書ニハ招集者之ニ記名スルコトヲ要ス
- 第二十四條 總會ハ總組合員ノ半數以上出席スルニ非ザレバ開會スルコトヲ得ズ
- 第二十五條 總會ノ議長ハ組合員之ニ當ル。組合長事故アルトキハ理事ノ一人之ニ代ル但シ總會ニ於テ必要ト

- 第二十六條 組合員ハ五人以上ヲ代理シテ議決權ヲ行フコトヲ得ズ
  - 第二十七條 總會ノ決議ハ理事之ヲ作り議長及ビ監事之ニ記名捺印スルコトヲ要ス
  - 第二十八條 總會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム
  - 第二十九條 本組合ニ信用評定委員三名ヲ置キ通常總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス  
信用評定委員ノ任期ハ一箇年トス但シ再選ヲ妨グズ
  - 第三十條 信用評定委員ハ總會ノ決議ニ依リ何時ニテモ解任スルコトヲ得  
信用評定委員ハ一月及ビ七月定會ヲ開キ組合員各自ノ信用ヲ評定シ信用程度表ヲ作成ス
  - 第三十一條 信用程度表ハ理事之ヲ保管シ役員以外ノ者ノ閲覧ヲ許ササルモノトス
  - 第三十二條 理事、監事及ビ信用評定委員ハ名譽職トス  
理事、監事及ビ信用評定委員ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ズ
  - 第三十三條 本組合ニ書記何名ヲ置キ理事之ヲ任命ス  
書記ハ理事及ビ監事ノ命ヲ承ケテ庶務ニ従事ス
- 第四章 事業ノ執行
- 第三十四條 本組合ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三十五條 組合員が貸付ヲ請求シタルトキハ理事ハ信用程度表及ビ貸付金ノ用途ヲ調査シテ其金額ヲ定ムルモノトス

第三十六條 理事貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ組合員ヲシテ保證人ヲ立テシメ又ハ擔保ヲ供セシムルコトヲ要ス

第三十七條 貸付金ノ辨濟期限ハ一箇年以内ニ於テ之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルモノニ付テハ之ヲ三箇年以内ト爲スコトヲ得

第三十八條 組合員が貸付金ノ辨濟ヲ怠リタルトキハ遲延利息ハ貸付金ノ利率ニ依ル

第三十九條 理事ハ貸付金使用ノ實況ヲ監査シ貸付ノ目的ニ反スルモノアリト認ムルトキハ組合員ニ對シ期限前ト雖辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十條 貯金ハ一回金一圓以上トス

貯金ノ利息ハ六箇月毎ニ之ヲ元本ニ組込ムモノトス

第四十一條 貸付金及ビ貯金ノ利率ハ左ノ制限内ニ於テ理事便宜之ヲ定ム

一 貸付金ニ在リテハ年一割二分以下

二 貯金ニ在リテハ年八分以下

第四十二條 理事ハ組合ニ餘裕金アルトキハ總會ノ承認ヲ經タル銀行又ハ一個人ニ之ヲ預入ルコトヲ得

第四十三條 事業執行ニ關スル細則ハ理事之ヲ定ム

第五章 剩餘金分配及ビ損失分擔

第四十四條 剩餘金ハ準備金ニ積立ツベキ金額ヲ控除シタル後ニ非ザレバ之レヲ組合員ニ配當又ハ分配スルコトヲ得ズ

剩餘金ノ配當又ハ分配ハ組合員ノ持分ニ應ズルモノトス

前項ノ配當又ハ分配ノ率ハ年五分以下トス

第四十五條 損失ノ填補ハ先ヅ特別積立金ヲ以テシ次ニ準備金ヲ以テス

第四十六條 組合財産ガ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラザルトキハ組合員ハ出資額ニ應ジ損失ヲ分擔スルモノトス

脱退シタル組合員ニ付キ亦同シ

第六章 加入及ビ脱退

第四十七條 新ニ組合員タラントスル者ハ申込書ニ加入金五十圓ヲ添ヘ理事ニ差出スコトヲ要ス

理事前項ノ申込書ヲ受ケタルトキハ書面ヲ以テ總組合員ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス總組合員ノ同意アリタルトキハ理事其旨加入者ニ通知シ第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後組合員名簿ニ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第四十八條 組合員其持分ヲ讓渡サントスル場合ニ於テ讓受人ガ組合員ナルトキハ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ承諾シ組合員ニ非ザル者ナルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 組合員脱退セントスルトキハ少クトモ其事業年度末十箇月前ニ其旨ヲ理事ニ報告スルコトヲ要ス

第五十條 死亡ニ因リ脱退シタル組合員ノ相續人が直チニ組合員タラントスルトキハ加入金ヲ差出スコトヲ要セズ

第五十一條 組合員左ノ事由ノ一ニ當ルトキハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス

- 一 出資ノ拂込、貸付金ノ辨濟又ハ利息ノ拂込ヲ怠リ期限一箇月以内ニ其義務ヲ履行セザルトキ
- 二 組合ノ事業ヲ妨グルノ所爲アリタルトキ
- 三 犯罪其他ノ所爲ニ依リ信用ヲ失ヒタルトキ

第五十二條 組合員脱退ノ場合ニ於ケル持分ノ拂戻ハ其拂込済出資額ニ止マルモノトス但シ死亡、禁治産其他總會ニ於テ止ムコトヲ得ザルモノト認メタル事由ニ依リ脱退シタル組合員ニハ持分ノ全部ヲ拂戻スモノトス

第七章 組合ノ解散

第五十三條 本組合解散シタルトキハ理事其清算人ト爲ル

第八章 附則

第五十四條 本組合設立當時ノ理事、監事及ビ信用評定委員ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ第一回通常總會ニ於テ之ヲ改選ス

理 事	何 某
理 事	何 某

(二)無限責任何々信用組合定款

(加入豫約ニ關スルモノ)

(農商務省調査) 明治四十三年三月十六日 官報第八〇一六號

第一章 總則

第一條 本組合ハ組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及ビ貯金ノ便宜ヲ得セシムルヲ以テ目的トス

本組合ハ加入豫約者ノ貯金ヲ取扱フ

第二條 本組合ハ無限責任何々信用組合ト稱ス

第三條 本組合ノ組織ハ無限責任トス

第四條 本組合ノ區域ハ何縣何郡何村トス

理 事	何 某
監 事	何 某
信用評定委員	何 某
信用評定委員	何 某
信用評定委員	何 某

第五條 本組合ノ事務所ハ之ヲ何縣何郡何村何香地ニ置ク  
第六條 組合員ハ本組合ノ區域内ニ住居シ且ツ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ限ル加入豫約者ノ資格亦同シ  
第七條 組合員又ハ加入豫約者ハ他ノ信用組合ニ加入シ又ハ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ズ  
第八條 本組合ノ存立時期ハ三十箇年トス

第二章 出資及ビ積立金

第九條 本組合ノ財産ニ付組合員ノ有スル持分ハ其ノ拂込済出資額ニ應ズルモノトス  
第十條 出資一口ノ金額ハ金十圓トス  
第十一條 出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金一圓トス但シ第四十八條第三項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
第十二條 第一回後ノ出資拂込ハ配當スベキ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノ、外出資一口毎ニ左ノ各號ノ一ニ依リ出資ノ拂込ヲ爲スモノトス  
一 每月末金二十圓宛拂込ムコト  
二 毎年一月末及ビ六月末金一圓宛拂込ムコト  
三 第一回拂込後一箇年内ニ全額ヲ拂込ムコト  
第十三條 出資ノ拂込ヲ怠リタルトキハ期日後一日ニ付其ノ拂込ムベキ金額ノ二百分ノ一ニ當ル過怠金ヲ徵收ス

第十四條 産業組合法第十五條第一項第一號及ビ第二號ノ事項ニ付テ爲スベキ産業組合原簿ノ記載ノ變更ハ毎年十二月三十一日ニ之ヲ取廻メテ其ノ後二週間内ニ之ヲ爲スモノトス

第十五條 本組合ハ出資總額ト同額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルモノトス

第十六條 過怠金及ビ第五十四條ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル持分ノ剩餘金ハ之ヲ準備金ニ組入ルモノトス

第十七條 剩餘金ヨリ準備金ニ積立ツベキ金額ヲ控除シ仍殘餘アルハハ配當金又ハ特別積立金ト爲スモノトス

第十八條 特別積立金ハ損失填補ニ充ツルノ外總會ノ決議ニ依リ臨時ノ支出ニ處分スルコトヲ得

第十九條 準備金及ビ特別積立金ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行若クハ一個人ニ預入レ又ハ之ヲ以テ國債證券ヲ買入ル、ノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ズ但シ總會ノ承認ヲ經テ事業資金ニ融通スルコトヲ得

第三章 機關

第二十條 本組合ニ理事三名監事二名ヲ置ク

理事ハ組合長一名ヲ互選ス

組合長ハ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス組合長事故アルトキハ理事ノ互選ニ依リ其ノ代理者一名ヲ定ム  
第二十一條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ再選ヲ妨グズ  
組合長ノ任期ハ理事ノ任期ニ從フ

補選選舉ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

理事及ビ監事ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十二條 辭任其ノ他ノ事由ニ依リ理事又ハ監事ニ屬員ヲ生ジタルトキハ通常總會開會ノ時期迄繼續スルコト能ハザル場合ニ限リ臨時總會ヲ召集シ補選選舉ヲ爲スモノトス

總會ガ理事又ハ監事ノ解任ヲ議決シタルトキハ同時ニ其ノ補選選舉ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 總會ハ通常總會及ビ臨時總會ノ二種トス  
通常總會ハ毎年一回一月之ヲ開ク  
臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一 理事が必要ト認メタルトキ

二 監事ガ財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ態アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ總會ニ報告スル爲メ必要ト認メタルトキ

三 組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及ビ其召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ召集ヲ請求シタルトキ

第二十四條 總會ノ召集ハ少クテ五日日前ニ書面ヲ以テ組合員ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知書ニハ召集者之ニ記名スルコトヲ要ス

第二十五條 總會ハ總組合員ノ半數以上出席スルニ非ザレバ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十六條 總會ノ議長ハ第二十三條第三項第二號ノ場合ヲ除クノ外組合長之ニ當ル、組合長事故アルトキハ理事ノ互選ニ依ル

第二十三條第三項第二號ノ場合ニ於ケル總會ノ議長ハ總會ヲ召集シタル監事之ニ當ル、其ノ多數ナル場合ニ於テハ其ノ互選ニ依ル

總會ニ於テ必要ト認メタルトキハ出席者ノ互選ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十七條 組合員ハ五人以上ヲ代理シテ議決權ヲ行フコトヲ得ズ

第二十八條 總會ニ於テハ決議ヲ作り會議ノ顛末及ビ出席者ノ員數ヲ記載スルコトヲ要ス

決議ニハ議長ノ指名シタル出席者二名以上之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二十九條 總會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第三十條 本組合ニ信用評定委員三名ヲ置キ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス

信用評定委員ノ任期ハ一箇年トス但シ再選ヲ妨ケズ

第三十一條 信用評定委員ハ總會ノ決議ニ依リ何時ニテモ解任スルコトヲ得

信用評定委員ノ選任及ビ解任ニ關シテハ理事及ビ監事ノ例ニ依ル

第三十二條 信用評定委員ハ一月及ビ七月定會ヲ開キ組合員各自ノ信用ヲ評定シ信用程度表ヲ作成ス

信用程度表ハ理事之ヲ保管シ役員ノ外閲覧スルコトヲ得ザルモノトス

第三十三條 理事、監事及ビ信用評定委員ハ名譽職トス

理事、監事及ビ信用評定委員ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ズ

第三十四條 本組合ニ書記何名ヲ置キ之ヲ任免ス

書記ハ理事及ビ監事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第四章 事業ノ執行

第三十五條 本組合ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始まり十二月三十一日ニ終ル

第三十六條 組合員ガ貸付ヲ請求シタルトキハ理事ハ信用程度表及ビ貸付金ノ用途ヲ調査シ貸付クベキ金額及

ビ其ノ方法ヲ定ムルモノトス

第三十七條 貸付金ノ辨濟期限ハ一箇年内ニ於テ之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルトキハ三箇年内ニ於テ之ヲ定ム

ルコトヲ得

第三十八條 貸付金ノ辨濟ニ付テノ遲延利息ハ貸付金ノ利率ニ依ル

第三十九條 理事ハ貸付金使用ノ實況ヲ監査シ貸付ノ目的ニ反スルモノアリト認ムルトキハ組合員ニ對シ期限

前ト雖辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十條 貯金ハ一回金一錢以上トス

加入豫約者ノ貯金ハ一人ニ付投資一口ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

貯金ノ利息ハ毎年六月末及ビ十二月末ノ兩度ニ之ヲ元本ニ組入ルモノトス

第四十一條 貸付金及ビ貯金ノ利率ハ左ノ制限内ニ於テ理事之ヲ定ム

一 貸付金ニ付テハ年一割以下

二 貯金ニ付テハ年七分以下

第四十二條 組合ノ餘裕金ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行又ハ一個人ノ外他ニ之ヲ預入ルコトヲ得ズ

第四十三條 事業執行ニ關スル細則ハ理事之ヲ定ム

第五章 剩餘金處分及ビ損失ノ填補及ビ分擔

第四十四條 剩餘金ハ準備金ニ積立ツベキ金額ヲ控除シタル後ニ非ザレハ之ヲ處分スルコトヲ得ズ

剩餘金ノ配當ハ拂込済出資額ニ應ジ其ノ率ハ年五分以下トス

第四十五條 損失ノ填補ハ先ヅ特別積立金ヲ以テシ次ニ準備金ヲ以テス

第四十六條 組合ノ財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ各組合員間ニ於ケル損失分擔ノ割

合ハ其ノ出資額ニ應ズルモノトス脱退シタル組合員ノ損失分擔ノ割合亦同シ

第六章 加入及ビ脱退

第四十七條 組合ニ加入セムトスルトキハ申込書ヲ理事ニ差出スコトヲ要ス

理事前項ノ申込書ヲ受ケタルトキハ書面ヲ以テ總組合員ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス  
總組合員ノ同意アリタルトキハ理事ハ其ノ旨申込人ニ通知シ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後組合員名簿  
ニ記載スルコトヲ要ス

加入ノ效力ハ第四十八條第三項、第五十條及ビ第五十二條ノ場合ヲ除クノ外、出資第一回ノ拂込ト同時ニ發  
生スルモノトス

第四十八條 加入豫約ノ申込アリタルトキハ理事ハ其ノ許否ヲ決シ申込人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス  
加入豫約者ノ貯金額ガ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最小額ニ達シタル後ニ非ザレバ之ヲ組合員  
加入セシムルコトヲ得ズ

第四十七條ノ規定ハ加入豫約者ヲ組合員ニ加入セシムル場合ニ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ加入豫約者ノ貯金ハ  
其ノ全部ヲ出資拂込ニ充ツルコトヲ要ス

第四十九條 加入豫約者ガ第五十三條第二號又ハ第三號ニ該當スルトキハ總會ノ決議ニ依リ豫約ノ解除ヲ爲ス  
コトヲ得

第五十條 持分ヲ讓渡サムトスル場合ニ於テハ理事ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス持分ヲ讓受ケムトスル者ガ組合員  
ニ非ザルトキハ出資拂込ヲ爲サシメザルノ外第四十七條第一項乃至第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 組合員ガ脱退セムトスルトキハ少クテモ其ノ事業年度末十箇月前ニ其ノ旨ヲ理事ニ報告スルコト

ト要ス

第五十二條 死亡ニ依リ脱退シタル組合員ノ相続人が選滞ナク加入ノ手續ヲ爲シタルトキハ組合員被相続人ニ  
對スル持分ノ拂戻計算ヲ爲サズシテ之ヲ被相続人ト同一ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノト見做ス

第五十三條 組合員ガ左ノ事由ノ一ニ該當スルトキハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス

一 出資ノ拂込、過意金ノ納付、貸付金ノ辨済又ハ利息ノ支拂ヲ怠リ期限後一箇月内ニ其ノ義務ヲ履行セザ  
ルトキ

二 組合ノ事業ヲ妨グル行爲アリタルトキ

三 犯罪ノ他ノ行爲ニ依リ信用ヲ失ヒタルトキ

第五十四條 組合員脱退ノ場合ニ於ケル持分ノ拂戻ハ其ノ拂込済出資額ニ止ムルモノトス但シ死亡禁治產其ノ  
他總會ニ於テ止ムコトヲ得ザルモノト認メタル事由ニ依リ脱退シタル組合員ニハ持分ノ全部ヲ拂戻スモノト  
ス

第七章 解散

第五十五條 組合解散シタルトキハ理事其ノ清算人ト爲ル

第八章 附則

第五十六條 組合設立當時ノ理事、監事及ビ信用評定委員ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ第一回通常總會ニ於テ之



(三)有限責任何々信用組合聯合會定款

(農商務省調査) 明治四十三年三月十七日 官報第八〇一七號登載

第一章 總 則  
第一條 本會ハ所屬組合及ビ所屬聯合會ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及ビ貯金ノ便宜ヲ得セシムルヲ以テ目的トス  
第二條 本會ハ有限責任何々信用組合聯合會ト稱ス  
第三條 本會ノ組織ハ有限責任トス

理事	何	某
理事	何	某
理事	何	某
監事	何	某
監事	何	某
信用評定委員	何	某
信用評定委員	何	某
信用評定委員	何	某

第四條 本會ノ區域ハ何縣何郡何郡及ビ何郡ノ三郡トス

第五條 本會ノ事務所ハ之ヲ何縣何郡何村何番地ニ置ク

第六條 所屬組合又ハ所屬聯合會ハ本會ノ區域内ニ主タル事務所ヲ有スルモノニ限ル

第七條 本會ノ財産ニ付所屬組合及ビ所屬聯合會ノ有スル持分ハ其ノ拂込済出資額ニ應ズルモノトス

第八條 所屬組合又ハ所屬聯合會ガ一事業年度ニ於ケル借入最高金額ヲ議決シタルトキハ還滞ナク本會ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第九條 産業組合法第九條第一項第一號乃至第十號、第十二號及ビ同法第十五條第一項第一號乃至第四號ニ掲ゲタル事項竝ニ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ區域、理事及ビ監事ノ氏名、住所ニ變更アリタルトキハ所屬組合又ハ所屬聯合會ハ毎月末限リ取纏メ本會ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第二章 出資及ビ積立金

第十條 出資一口ノ金額ハ三百圓トス

第十一條 出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金三十圓トス

第十二條 出資ノ拂込ヲ怠リタルトキハ期日後一日ニ付其ノ拂込ムベキ金額ノ二百分ノ一二當ル過怠金ヲ徵收ス

- 第十三條 本會ハ出資總額ト同額ニ達スル毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルモノトス
  - 第十四條 加入金、過剰金第四十五條ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル持分ノ殘額及ビ拂戻ヲ爲サル持分ハ之ヲ準備金ニ組入ル、モノトス
  - 第十五條 剩餘金ヨリ準備金ニ積立ツベキ金額ヲ控除シ仍殘餘アルトキハ配當金又ハ特別積立金ト爲スモノトス
  - 第十六條 特別積立金ハ損失填補ニ充ツルノ外總會ノ決議ニ依リ臨時ノ支出ニ處分スルコトヲ得
  - 第十七條 準備金及ビ特別積立金ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行若クハ一個人ニ預入レ又ハ之ヲ以テ國債證券ヲ買入ル、ノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ズ但シ總會ノ承認ヲ經テ事業資金ニ融通スルコトヲ得
- 第三章 機關
- 第十八條 本會ニ理事五名監事三名ヲ置ク  
理事ハ會長一名ヲ互選ス
  - 第十九條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス會長事故アルトキハ理事ノ互選ニ依リ其ノ代理者一名ヲ定ム

- 會長ノ任期ハ理事ノ任期ニ從フ
  - 補選選舉ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス
  - 理事及ビ監事ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就職スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス
  - 第二十條 辭任其ノ他ノ事由ニ依リ理事又ハ監事ニ關員ヲ生ジタルトキハ通常總會開會ノ時期迄繼續スルコト能ハザル場合ニ限リ臨時總會ヲ招集シ補選選舉ヲ爲スモノトス
  - 總會ガ理事又ハ監事ノ解任ヲ議決シタルトキハ同時ニ其ノ補選選舉ヲ爲スコトヲ要ス
  - 第二十一條 總會ハ通常總會及ビ臨時總會ノ二種トス
  - 通常總會ハ毎年一回一月之ヲ開ク
  - 臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク
    - 一 理事ガ必要ト認メタルトキ
    - 二 監事ガ財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ態アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ總會ニ報告スル爲メ必要ト認メタルトキ
  - 三 所屬組合所屬聯合會ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及ビ其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求シタルトキ
- 第二十二條 總會ノ招集ハ少クトモ七日前ニ書面ヲ以テ所屬組合及ビ所屬聯合會ニ通知スルコトヲ要ス

第四項ノ通知書ニハ招集者之ニ記名スルコトヲ要ス

第二十三條 所屬組合及ビ所屬聯合會ハ本會ノ總會ニ出席セシムル爲メ理事ノ互選ニ依リ代表者一名ヲ定メ之ヲ本會ニ届出ヅルコトヲ要ス其ノ代表者ニ變更アリタル場合亦同シ

第二十四條 總會ハ所屬組合及ビ所屬聯合會ノ代表者半數以上出席スルニ非ザレバ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十五條 總會ノ議長ハ第二十一條第三項第二號ノ場合ヲ除クノ外會長之ニ當ル、會長事故アルトキハ理事ノ互選ニ依ル

第二十一條第三項第二號ノ場合ニ於ケル總會ノ議長ハ總會ヲ招集シタル理事之ニ當ル、其ノ多數ナル場合ニ於テハ其ノ互選ニ依ル

總會ニ於テ必要ト認メタルトキハ出席者ノ互選ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 總會ニ於テハ決議ヲ作り會議ノ顛末及ビ出席者ノ員數ヲ記載スルコトヲ要ス

決議ニハ議長ノ指名シタル出席者二名以上之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二十七條 總會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十八條 理事ハ每事業年度ノ始及ビ必要ト認ムル場合ニ於テ所屬組合又ハ所屬ニ貸付クベキ最高金額ヲ定メ信用程度表ヲ作成スルコトヲ要ス

信用程度表ハ理事之ヲ保管シ監事ノ外閲覧スルコトヲ得ザルモノトス

第二十九條 理事及ビ監事ハ名譽職トス

理事及ビ監事ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ズ

第三十條 本會ニ書記何名ヲ置キ理事之ヲ任免ス

書記ハ理事及ビ監事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四章 事業ノ執行

第三十一條 本會ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三十二條 所屬組合又ハ所屬聯合會ニ對スル貸付ニ付テハ信用程度表ニ依リ其ノ信用ヲ査定シ貸付クベキ金額及ビ其ノ方法ヲ定ムルモノトス

第三十三條 貸付金ノ辨濟期限ハ一箇年內ニ於テ之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルトキハ三箇年內ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條 貸付金ノ辨濟ニ付テハ遲延利息ハ貸付金ノ利率ニ依ル

第三十五條 本會ニ於テ取扱ノ貯金ハ一回金五圓以上トス

貯金ハ預入ノ日ヨリ起算シ拂戻ハ前日迄ノ日數ヲ計算シテ利息ヲ附スルモノトス

貯金ノ利息ハ毎年六月末及ビ十二月末ノ兩度ニ之ヲ元本ニ組入ル、モノトス

第三十六條 貸付金及貯金ノ利率ハ左ノ制限内ニ於テ理事之ヲ定ム

一 貸付金ニ付テハ年九分以下

二 貯金ニ付テハ年七分五厘以下

第三十七條 本會ノ餘裕金ハ總會ノ承諾ヲ經タル銀行又ハ一個人ノ外他ニ之ヲ預入ルコトヲ得

第三十八條 事業執行ニ關スル細則ハ理事之ヲ定ム

第五章 剩餘處分及ビ損失填補

第三十九條 剩餘金ハ準備金ニ積立ツベキ金額ヲ控除シタル後ニ非ザレバ之ヲ處分スルコトヲ得ズ

第四十條 損失ノ填補ハ先ヅ特別積立金ヲ以テシテ次ニ準備金ヲ以テス

第六章 加入及ビ脱退

第四十一條 本會ニ加入セントスルトキハ申込書ニ加入金ニ關及ビ左ニ掲ケル書類ヲ添付シテ理事ニ差出スコトヲ要ス

一 定款ノ謄本

二 最近ニ作成シタル貸借對照表

三 産業組合法第七十八條ノ規定ニ依ル總會又ハ總代会ノ決議録ノ謄本

申込書ニハ設立許可ノ年月日並ニ理事及ビ監事ノ氏名、住所ヲ附記スルコトヲ要ス

理事加入ノ申込ヲ承諾シタルトキハ其ノ旨申込者ニ通知シ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後所屬組合及ビ所屬聯合會名簿ニ記載スルコトヲ要ス

加入ノ効力ハ第四十二條ノ場合ヲ除クノ外出資第一回ノ拂込ト同時ニ發生スルモノトス

第四十二條 持分ヲ讓渡セムトスル場合ニ於テハ理事ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス持分ヲ讓受ケムトスルモノガ所屬組合又ハ所屬聯合會ニ非ザルトキハ出資拂込ヲ爲サシメザルノ外前條第一項乃至第三項ノ規定ニ準用ス

第四十三條 所屬組合又ハ所屬聯合會ガ脱退セムトスルトキハ少クトモ其ノ事業年度末六箇月前ニ其ノ旨ヲ理事ニ報告スルコトヲ要ス

第四十四條 所屬組合又ハ所屬聯合會ガ左ノ事由ノ一ニ該當スルトキハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス

一 出資ノ拂込過怠金ノ納付、貸付金ノ辨濟又ハ利息ノ支拂ヲ怠リ期限後一箇月以内ニ其ノ義務ヲ履行セザルトキ

二 本會ノ事業ヲ妨グル行爲アリタルトキ

三 信用ヲ失ヒタルトキ

第四十五條 所屬聯合會脱退ノ場合ニ於ケル持分ノ拂戻ハ其ノ拂込出資額ニ止ムルモノトス

前條ノ規定ニ依リ除名セラレタル組合又ハ聯合會ニ對スル持分ノ拂戻ハ其ノ拂込出資額ノ半額ニ止ム

第七章解 散

第四十六條 本會解散シタルトキハ理事其ノ清算人ト爲ル

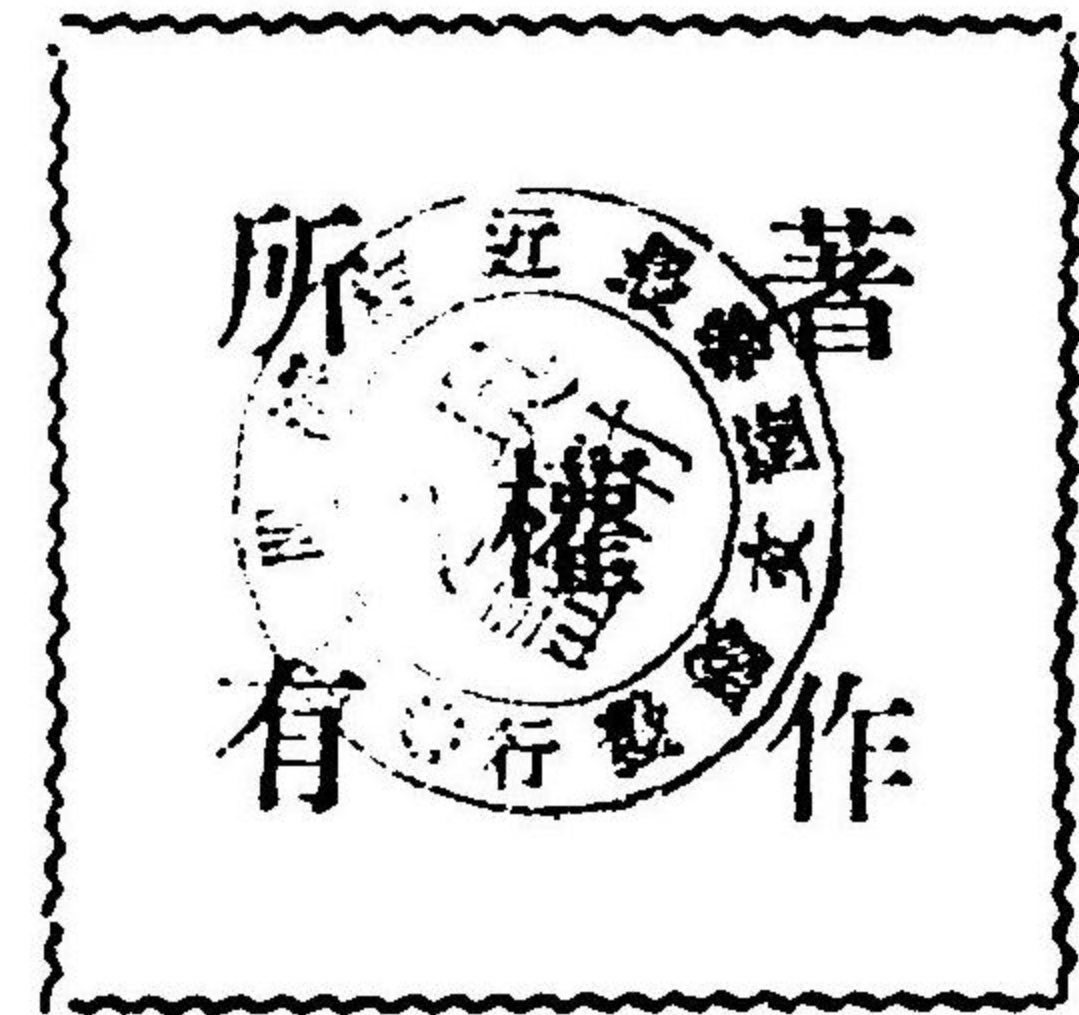
第八章附 則

第四十七條 本會設立當時ノ理事及ビ監事ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ一回通常總會ニ於テ之ヲ改選ス

監	監	監	理	理	理	理	理
事	事	事	事	事	事	事	事
何	何	何	何	何	何	何	何
某	某	某	某	某	某	某	某

日本信用組合論 完

明治四十四年十二月廿日印刷  
 明治四十四年十二月廿八日發行



發行所

著 者 者 宇 佐 美 力  
 發 行 人 隆 文 館  
 右 代 表 者 草 村 松 雄  
 印 刷 人 中 村 政 雄  
 印 刷 所 報 文 社

東京市京橋區南鍋町一丁目二番地

隆 文 館

振替貯金口座東京八五三番  
 電話新橋一七八〇一七八二一七八二

最近經濟問題第拾六卷

日本信用組合論

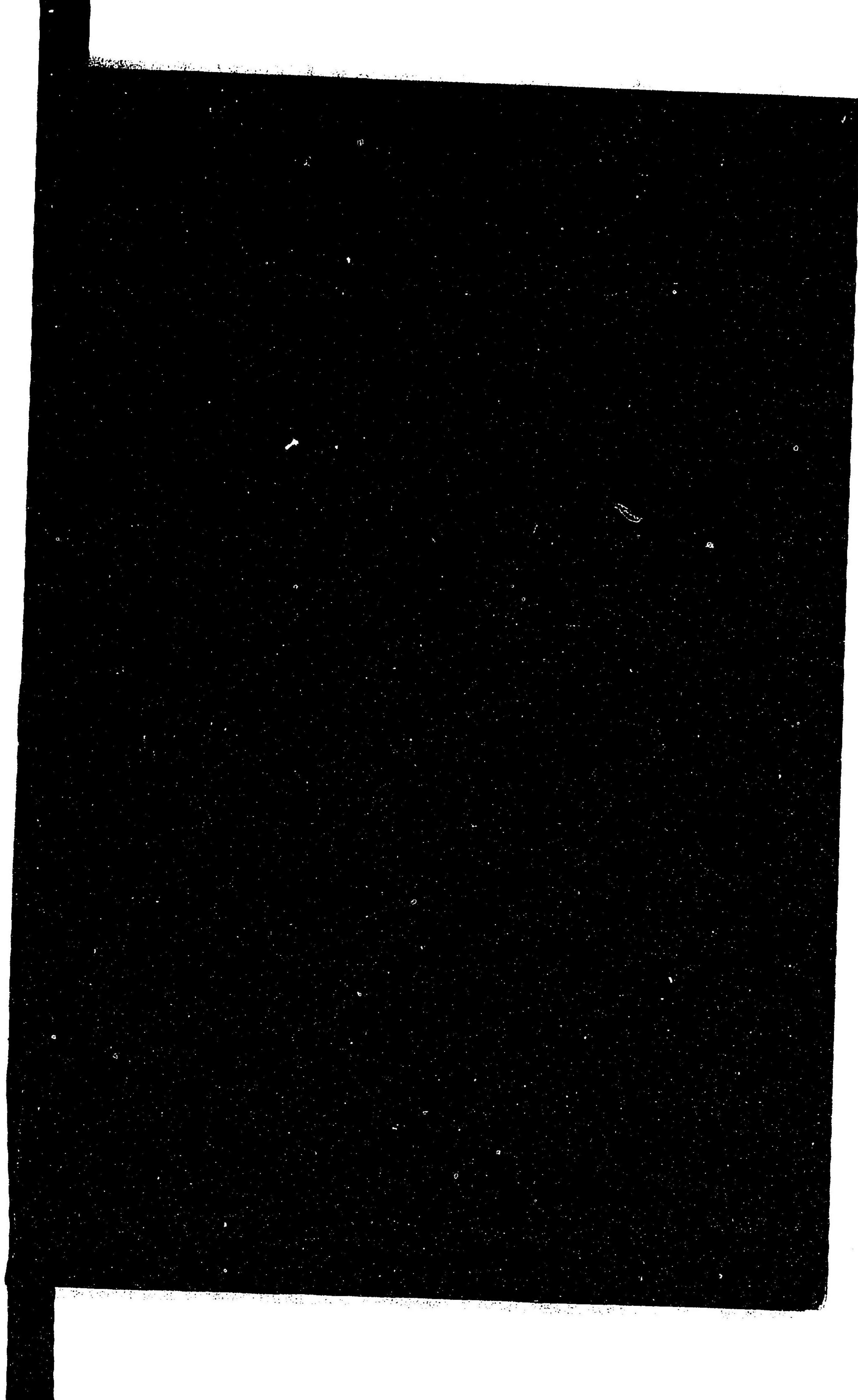
最近經濟問題叢書

第十一卷 既刊書目

卷一	關稅問題	慶應義塾大學教授法學博士	堀江	歸一先生著
卷二	工場法・勞働保險	貴族院議員法學博士	桑田	熊藏先生著
卷三	稅制整理	早稻田大學教授法學博士	田中	穗積先生著
卷四	豫算制度	會計検査院檢査官法學士	工藤	重義先生著
卷五	勞働者保護法論	東京高等商業學校教授法學博士	關	一先生著
卷六	電氣鐵道經營論	鐵道經濟專攻大應義塾大學教授法學博士	坪井	鹿次郎先生著
卷七	殖民と經濟	大應義塾大學教授法學博士	堀切	善兵衛先生著
卷八	燐寸及砂糖論	東京帝國大學教授法學博士	河津	暹先生著
卷九	財政概論	京都帝國大學教授法學博士	神戶	正雄先生著
卷十	婦人問題(絶版)	京都帝國大學助教授法學士	河田	嗣郎先生著
卷十一	國立保險論	東京帝國大學教授法學博士	栗津	清亮先生著
卷十二	企業の聯合及合同	慶應義塾大學教授法學博士	氣賀	勘重先生著

330

4





330

4

041241-000-3

330-4

日本信用組合論

宇佐美 力/著

M44.12

BDF-0451



36.2. 6